

## 中間提言に対する意見【要約版】

資料 1

※番号が網掛けになっている箇所は表現に関する意見

番号	中間提言の該当場所	意見(要点)
1	「1. 提言の背景と目的」	・1ページ1行目、「これまで」を削除
2	「1. 提言の背景と目的」	・コミュニティの定義が冒頭にないため、論じている対象が不明確である。コミュニティ条例の定義との関連も併せて記載すべき。
3	「1. 提言の背景と目的」	・「コミュニティ構想に基づいたコミュニティづくりの認知」について課題認識が適切に整理されていない。また、活動団体や行政からの、コミュニティ活動に参加していない個人に対する働きかけの不足と、そのような個人に対しての価値判断やそれに対する問題意識も併せて提示すべきではないか。
4	「2. 地域コミュニティとは」	・地域コミュニティの定義が、コミュニティ条例3条(1)とどのような関係にあるか(発展的に解釈したか等)について説明すべき。
5	「2. 地域コミュニティとは」	・コミュニティ条例とコミュニティの概念の整合がとれていない。また、目的別コミュニティだけが地域コミュニティではない。
6	「2. 地域コミュニティとは」	・「地域コミュニティ」は課題解決が前提となっているため、自分自身に置き換えた場合、コミュニティに加わるには相当高いハードルとなる。日頃から「挨拶ができる程度の交流」がなければ、それ以上の動機を持ち課題解決のために活動しようという意欲を持つことは難しく、まずは、「挨拶ができる程度の交流」を入り口として目指すべきである。
7	「2. 地域コミュニティとは」	・地域のコミュニティへの入り口が現状でも低くないハードルと感じられているからこそ新陳代謝が進まないのであって、参加への喜びや楽しさを謳わず、地域コミュニティの定義を「一定の連帯感や相互扶助の意識を持って課題解決にあたっていくことのできる社会的なまとまり」とすることでは、新たな参加者が大量に発生することになるとは思えない。結局は固定化・高齢化・負担感の再確認になってしまうことを危惧する。
8	「2. 地域コミュニティとは」	・「コミュニティを行政の下請けにしない」「第二・第三市役所化しない」という哲学が根底にあったと考えられる中で、行政の文書で「課題解決にあたっていくことのできる社会的なまとまりを地域コミュニティと定義する」という言い方をすることは、コミュニティ構想が示した価値観に逆行するため、大いに違和感を覚える。

番号	中間提言の該当場所	意見(要点)
9	「2. 地域コミュニティとは」	<p>・今回の提言における地域コミュニティの概念はあまりに狭い。本市のコミュニティ構想は「地域を平等で自由な空間にしよう」と考える多くの市民の見識の賜物であり、まさに「市民自治」である。コミュニティ構想自体に問題があるのではなく「実態」に課題が発生しているととらえるべき。</p>
10	「3(1)地域コミュニティの現状」	<p>・さまざまな団体と地域コミュニティ協議会との関係が明確になっていないことは、コミュニティ構想に基づくあり方としては、間違っているものではない。そのことを再考するのであれば、コミュニティ構想自体について言及することが必要となる。</p>
11	「3(1)地域コミュニティの現状」	<p>・コミセンと地域社協との間では、各地域での認識の違いがあまりにも多かったが、吉西福祉の会では、部屋取りや物の置き場について配慮いただいている。しかし、他地区では、コミセンが利用しにくくなったとの声も聞いている。地域社協とコミュニティ協議会は地域を支える車の両輪であり、どちらかが大きすぎることなく、協力していかなければならず、地域社協は活動諸団体の中のひとつではなく、コミュニティ協議会と共にコミュニティの中心にあるべき存在である。</p>
12	「3(2)地域コミュニティの課題」	<p>・5ページ5段落2行目:「…NPOなどが、行政等との関係性のもと地域毎に活動しています。」を「…NPOなどが、地域毎に活動しています。しかし、それらは必ずしもコミュニティ協議会と連携しているわけではありません。」とする。==【ここでは、行政との関係で生まれたことよりも、コミュニティ協議会と連携していないことのほうが重要】</p>
13	「3(2)地域コミュニティの課題」	<p>・5ページ最終段落1～2行目:「…目的で、行政などにより子育て…」を「…目的で、行政の働きかけなどにより…」==【本来は住民の自主組織であるものを「行政が作らせた」ように受け取れる表現は不適】</p>
14	「3(2)地域コミュニティの課題」	<p>・6ページ2段落目:「…結果として、「コミュニティ構想」がめざした「地域コミュニティ」全体で、地域の様々な課題について市民が議論していくような状態は達成できていません。」を「…結果として、「コミュニティ構想」がめざした状態—つまり、「地域コミュニティ」全体で地域の様々な課題について市民が議論していくような状態—は達成できていません。」にする。</p>

番号	中間提言の該当場所	意見(要点)
15	「3(2)地域コミュニティの課題」	<p>・「地域コミュニティの課題」が、「コミュニティ協議会の課題」となっている。また、コミュニティ協議会の活動に参加しにくい理由は、地域活動自体を市民自身が否定的に捉えていることであり、そのことをもって掘り下げる必要があるのではないかと。</p> <p>各種団体がコミュニティ協議会という場を共有しなければならないとはコミュニティ構想に定められておらず、むしろ現状はコミュニティ構想の目指す方向性に近いものともいえるものでもある。</p> <p>コミュニティ構想を評価することは市民自治の在り方を評価することであり、地域の様々な課題について「議論していくような状態」が「コミュニティ構想」が目指したものであるとして記載することは、目標を矮小化しているのではないかとと思われる。</p>
16	「4. これからの地域コミュニティのイメージ」	<p>・地域コミュニティと行政が共に情報を共有し、互いを尊重しながら対等な立場で協働することには賛成である。</p>
17	「4. これからの地域コミュニティのイメージ」	<p>・「地域フォーラム構想」は是非とも実現してほしい。これによって行政の役割がはっきりとし、縦割りになっている各活動団体が横のつながりを持つことになり、さらに世代間の垣根を低くすることでより強い地域コミュニティとなる。</p>
18	「4. これからの地域コミュニティのイメージ」	<p>・地域フォーラムで協議する課題には2種類あり、地域コミュニティ内で解決すべきものと、行政が関与して協働で解決すべきものがある。提言では後者のみ言及されており、前者について触れられていない。また、自主三原則については、「自主に基づく行政との協働」というレベルにまで発展すべき。</p>
19	「4. これからの地域コミュニティのイメージ」	<p>・地域コミュニティは行政から独立している存在であることから、地域コミュニティの枠内に行政が入っている図は修正すべき。</p> <p>・同様に地域フォーラムについても、行政や他の主体が参加するのであれば、地域コミュニティの枠外に出した方がよい。</p>
20	「4. これからの地域コミュニティのイメージ」	<p>・7頁3行目:「…構成するコミュニティ協議会や多様な…」の箇所から、「コミュニティ協議会や」を取る==【本提案を貫く考えは、地域フォーラムのコーディネーターがコミュニティ協議会なので、この協議会が他の主体と並列に並ぶのはおかしい】</p>

番号	中間提言の該当場所	意見(要点)
21	「4. これからの地域コミュニティのイメージ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7頁4行目:「には行政も」を「に必要に応じて行政も」とする。==【地域フォーラムでは、行政から独立して地域コミュニティ内のみで自力で解決すべき課題も扱うべきと考えるため、つねに行政が対等に参加するというのは、自主三原則に反する】</li> </ul>
22	「4. これからの地域コミュニティのイメージ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・③「学び」の機会を設けることの重要性。</li> <li>・9頁4(2)のあとに「(3)「学び」の機会の必要性」を挿入する。</li> </ul> <p>地域課題を住民自らの力で解決していくためには、「学び」に支えられたさまざまな知識や技術が必要となります。これからの地域コミュニティには、これらの力を市民自身が蓄え、さまざまな地域の課題を地域コミュニティの構成員の間で解決したり、あるいは行政や他の関係者との協働によって解決したりすることが求められます。そのような「力」として、次の①、②のようなものが考えられます。これらを学ぶための学習の場は、住民自身が生み出すことも必要ですが、行政としても計画的に講座やワークショップなどを提供し、地域コミュニティの課題解決力の向上を促していくことが求められます。</p> <p>①協議の場を運営する力 地域フォーラムをコミュニティ協議会が運営するためには、民主的な協議の方法、ファシリテーション、コーディネーションなど、協議を進めるためのさまざまな方法論を習得する必要があります。</p> <p>②地域課題をとらえる力 現代の地域は、グローバルゼーションをはじめ多様な社会変化のもとに置かれています。そのような社会変化を学ぶとともに、そのなかでの地域の課題を的確にとらえ、解決策を思考する力も必要です。</p>
23	「4. これからの地域コミュニティのイメージ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去から状況が変わっており、今ある問題に地域フォーラムで対応することが必要なため、賛成である。</li> </ul>
24	「4. これからの地域コミュニティのイメージ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域フォーラムは地域への押しつけで、答えや形ありきの進め方は行政と市民の関係を壊すことになり、市民力の高いといわれる武蔵野市がこわれるのではないか。</li> </ul>
25	「4. これからの地域コミュニティのイメージ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間提案の7ページ目の図に対して、コミュニティ協議会がこうした形を実現することができるのかという不安と、地域コミュニティの枠の中に行政が入っていて良いのか。</li> </ul>
26	「4. これからの地域コミュニティのイメージ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題ごとの活動諸団体とあるが、例えば、学校やPTAと並んで青少協が入るべきではないか。</li> </ul>

番号	中間提言の該当場所	意見(要点)
27	「4. これからの地域コミュニティのイメージ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主三原則は見直すべき時期だと思うが、現実には難しく、提言書の内容を各コミュニティ協議会ができるところについて積極的に取り入れ、地域の諸団体と交流だけでも進め、そこに行政が対等に加わることが、自主三原則を基本としながら行政との関係を構築することにつながると思う。</li> </ul>
28	「4. これからの地域コミュニティのイメージ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災の活動は、実効性を高めるためには狭いエリアを対象とする傾向にあり、地域フォーラムとは方向性が異なるため、防災のコミュニティと地域フォーラムは全く別物になる可能性もあるのではないかと。</li> </ul>
29	「4. これからの地域コミュニティのイメージ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7ページの図であるが、活動諸団体が相互に有機的に結びついている状態が地域フォーラムであり、それを運営するのがコミュニティ協議会という図があるべき姿ではないかと。</li> </ul>
30	「4. これからの地域コミュニティのイメージ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を線引きすることで拘束力が強まり、「ある特定の人がいるから参加しない、あのコミセンには行きづらい」といった人は、より団体に参加しにくくなるため、高齢化・固定化は解消できないのではないかと。</li> </ul>
31	「4. これからの地域コミュニティのイメージ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域フォーラムを束ねることがコミュニティ協議会の新たな役割だとすると、地域の中に階層が生まれてくるのではないかと。地域を線引きすることは、地域内の階層社会、地域間のものとり合戦・競争、地域間格差を生み出すことにつながり、市民自身による自由な往来(緩やかな交流)を目指して地域を線引きしてこなかった武蔵野市政への逆行となるため、地域フォーラムの在り方に不安が残る。</li> </ul>
32	「4. これからの地域コミュニティのイメージ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の基本方針に賛成している。コミュニティセンターの災害時の位置づけや、コミュニティセンターの地域における役割の見直し等、ぜひ地域フォーラム(仮称)で話し合いがもたれることを願っている。</li> </ul>

番号	中間提言の該当場所	意見(要点)
33	「4(1)地域フォーラムの参加者」	<p>・8頁④の第1段落と第2段落の間に下記の文章を挿入することを提案。</p> <p>地域コミュニティと行政との関係からみると、「地域フォーラム」の協議内容には二つのレベルが想定されます。ひとつは地域コミュニティの構成員のみに関わりをもつもの(第1レベル)、いまひとつは防災や大規模開発など行政やその他の関係機関等にも関わるもの(第2レベル)です。前者は、原則として地域コミュニティの構成員の間での協議によって解決するものであり、行政は助言者や情報提供者としての役割に徹すべきです。これに対し、後者は、行政も対等な立場で協議に参加して市民や他の関係者とともに協働によって解決策を探るべき課題です。</p> <p>地域コミュニティと行政との関係については、第6期武蔵野市コミュニティ市民委員会が行政三原則として「側面支援の原則」「市民要請の原則」「支援協働の原則」を提案しています。しかし、地域の課題が上記の第2レベルに相当する場合、行政はたんなる「支援」ではなく、地域コミュニティと共に責任を共有する立場になるため、これらの原則をふまえながらも「支援」というよりは対等な立場でコミュニティ協議会と協働することが必要となります。</p>
34	「4(1)①協議の場＝地域フォーラムの目指すもの」	<p>・8頁1行目:「…構成するコミュニティ協」の箇所から、「コミュニティ協」を取る。==【本提案を貫く考えは、地域フォーラムのコーディネーターがコミュニティ協議会なので、この協議会が他の主体と並列に並ぶのはおかしい】</p>
35	「4(1)①協議の場＝地域フォーラムの目指すもの」	<p>・身近な近所づきあいからフォーラムが始まるのではないかと。本来自分たちでできることを自分たちで対応する事を基本として、地域の団体が相互に集まり助け合ってまちづくりに取り組めるようなフォーラムにしていきたい。</p>
36	「4(1)①協議の場＝地域フォーラムの目指すもの」	<p>・各団体がコミュニティ協議会と対等の立場で集まれる地域フォーラムであるべき。</p>
37	「4(1)①協議の場＝地域フォーラムの目指すもの」	<p>・地域フォーラムでのテーマについて、地域には多様な団体があるため、地域の団体が融合しながら新しい活動を展開していく創造性が重要である。また、行政が関わらないで地域の課題を地域で解決できることと、行政の参加が必要になるような大きな課題を区別して考える必要がある。さらに、地域課題は地域毎に多様であることから、地域フォーラムで扱うテーマを調整することは難しいのではないかと。</p>

番号	中間提言の該当場所	意見(要点)
38	「4(1)①協議の場＝地域フォーラムの目指すもの」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域フォーラムで検討するテーマとして例えば、要支援者への対応については、安否確認と避難所への誘導が必要であることから、地域との連携が不可欠であり、テーマとして重要だろう。また、市境に居住していると避難場所がわかりにくいなど、住民の立場で情報が入ってこないといった意見もあり、地域フォーラムで議論されてくれば、住民への情報周知も可能になるのではないか。</li> </ul>
39	「4(1)①協議の場＝地域フォーラムの目指すもの」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域フォーラムを課題解決をする場とするのは荷が重すぎるのではないか。また、そこへの行政の関与の程度や方法は今後議論が必要である。</li> </ul>
40	「4(1)①協議の場＝地域フォーラムの目指すもの」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提言のように各団体の活動がコミセンを通して連携していくことにより、横のつながりができ、結果としてより良い地域コミュニティの形成につながる。さらに、地域ボランティアの窓口をコミセンに置けば、地域にとらわれず幅広い範囲での活動の支援もできる。</li> </ul>
41	「4(1)②地域フォーラムとしての地域コミュニティの範囲」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校区にコミセンをあわせられると、連携上非常に有効ではないか。</li> </ul>
42	「4(1)②地域フォーラムとしての地域コミュニティの範囲」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域フォーラムについては、小学校区レベルが望ましいのではないか。</li> </ul>
43	「4(1)②地域フォーラムとしての地域コミュニティの範囲」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エリアについては、まとまるどころから徐々にまとめていけると良いのではないか。</li> </ul>
44	「4(1)②地域フォーラムとしての地域コミュニティの範囲」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8頁②修正案 「地域フォーラム(仮称)」が協議の対象とする地域コミュニティの区域については、原則として現在のコミュニティ協議会の区域を想定しています。しかし、転入者などの地域コミュニティと関わりが薄い市民にとっては、重複等がみられる現在のコミュニティ協議会の区域は必ずしもわかりやすいものではないため、それぞれの地域における協議対象としての地域の範囲は、互いに重複しないよう境界を明確にし、市民にとっては自らの居住地に対して一つの地域フォーラムが存在するように設定します。ただし、実際のコミュニティ協議会の活動は、「自主三原則」の考え方にたち、その区域に関わらず、これまで通りの区域の考え方で活動していきます。 なお、複数の協議会区域にまたがって議論するようなテーマについては、コミュニティ協議会相互またはコミュニティ研究連絡会3(研連)の調整により対応していきます。</li> </ul>

番号	中間提言の該当場所	意見(要点)
45	「4(1)③地域フォーラムの運営と開催」	・協議会は一様ではないが、協議会が地域フォーラムの運営をおこなうのが前提であるなら、それについての共通理解が必要であり、そのことを明記すべき。
46	「4(1)③地域フォーラムの運営と開催」	・8頁③の5行目「…協議会に要請する…」を「…協議会に提案・要請する…」＝【行政が直接参加しないレベルもあるという考えに立ち、「提案」を挿入】
47	「4(1)③地域フォーラムの運営と開催」	・地域フォーラムの運営について、「地域懇談会」のようなものを既に運営している地域もあり、これを発展させるのが良いのではとの意見が出された。また、地域フォーラムのファシリテーション機能について、最初は行政がプロのファシリテーターを雇うことが必要ではないのか、コミュニティ協議会だけではなく地域団体がファシリテーターを担っても良いのではないのか。
48	「4(1)③地域フォーラムの運営と開催」	・「地域フォーラム(仮称)」の運営は、「コミュニティ構想」に基づき、コミュニティ協議会がその機能の一部として担っていきます」といった表現は言い過ぎであろうと思う。
49	「4(1)③地域フォーラムの運営と開催」	・コミセンに現状の貸部屋機能や様々な教室の開催場所としての機能だけでなく、地域課題への取り組みが期待されているならば、それに答えることは重要である。その方法論としての地域フォーラムは良いが、コミュニティ協議会が地域フォーラムの運営を行うとすると、運営委員の負担感が増加するのではないのかといった懸念もある。
50	「4(1)③地域フォーラムの運営と開催」	・主役は市民であるという原点に立ち返ることが重要である。その為には地域フォーラムの進め方が非常に重要であり、建設的な話し合いを進めるようにしなければならない。
51	「4(1)③地域フォーラムの運営と開催」	・コミュニティ協議会の役割について、地域フォーラムを運営する組織はコミュニティ協議会とは別の方がよいのではないのか。
52	「4(1)③地域フォーラムの運営と開催」	・地域フォーラムができることでコミュニティ協議会は、コミセンの管理運営に専念することになってしまうのではないのか。現在のコミュニティ協議会のメンバーに幅広く意見を聞く機会が必要である。
53	「4(1)③地域フォーラムの運営と開催」	・地域フォーラムの運営をコミュニティ協議会が担うことは、負担増を招き、活動の担い手や後継者をより一層遠ざける原因となる。

番号	中間提言の該当場所	意見(要点)
54	「4(1)③地域フォーラムの運営と開催」	・地域フォーラムの運営ができるような問題意識を持ったコミュニティ協議会長がどの程度いるのか疑問である。
55	「4(1)④地域フォーラムの参加者」	・市民、既存団体からコミセンに“事案”が持ち込まれ協働する場合、広範囲の関係住民の意見聴取を行い、状況の把握と正確な判断のための協議をして協働方法を決定する必要がある。
56	「4(1)④地域フォーラムの参加者」	・行政と一般市民、市民団体、NPO等の市民活動が対等な立場で話し合い、協働できたら素晴らしいが、実際にはそうはなっていない。行政による既存団体の擁護や、各団体内での自主三原則に反する行動などがある。既存団体は、地域市民との協働により、エリアごとの諸問題を各方面担当者で協議し解決しながら親交を深めていくものであるべき。コミセンに関わる全ての人が同一の考えではないので、各自が自分で考え、責任を持ってサークル活動、イベント、諸問題の解決に向けた組織に参加することが望ましい。
57	「4(1)④地域フォーラムの参加者」	・地域フォーラム(仮称)については、「つなぐ」という重要な役割を担うコミュニティ協議会に、スカウト機能を持たせ、人材発掘を行う必要があると考えている。
58	「4(2)コミュニティセンターの役割」	・コミセンが住民交流の場となれば、待機児童のためのサポート窓口、保育支援者育成などにコミセンを利用することも可能である。また、幼稚園の子ども連れの世代の利用の増加や学生ボランティアと連携した児童のための規格などで、様々な世代との出会いの場となり得る。
59	「4(2)コミュニティセンターの役割」	・コミセンをよく利用する人は偏りがちであるが、コミセンを利用しにくいと思っている在勤・在住者も多いのではないか。学生の勉強会の場所提供や、地域の情報を気軽に入手できる場所としての利用ができないか。さらに、学校や幼稚園、PTAがコミセンを利用して他の地域団体と交流することも考えられる。
60	「4(2)コミュニティセンターの役割」	・「なぜ参加しようと思わないのか?」「その阻害要因となっているものは何なのか?」については、参加しない側の理論を真剣に傾聴する必要がある。市民の意見と、活動されている方々の問題意識の落差は本当に大きく、その溝を埋める作業をしないと、いつまでたっても来館者も参加者も増えない。

番号	中間提言の該当場所	意見(要点)
61	「4(2)コミュニティセンターの役割」	・9頁(2)の2行目:「…「協議の場」…」を「…「協議の会場」…」とする。==【協議の場は地域フォーラムのことを言っているので、表現の重複を避ける点からコミセン=会場とする】
62	「5. 行政の役割」	・補助金を出しているのであれば市はもっとしっかり管理すべき。
63	「5. 行政の役割」	・行政はコミセンを含めた地域の全ての目的別コミュニティに対する縦割り行政の弊害を取り除き、管轄部署や団体とのやりとりが生じて、迅速かつオープンに実施されるようにすべき。
64	「5. 行政の役割」	・協働事業を実施している各種団体には、設立目的を明らかにして原点に立ち返ることや、市民から寄せられた意見を行政が団体全体に提供するなど、行政が責任を持って対処していく必要がある。
65	「5. 行政の役割」	・これまで、行政の地域への関わり方は不足しているとの意見も多く、今後の検討課題である
66	「5. 行政の役割」	・地域におけるコミュニティ協議会以外の団体がどのようにつながれば良いかわからないようなときに、行政が間を取り持つようなこともあって良いのではないかと。同時に、地域内・地域外共に団体相互の情報交換を進めるための具体的な仕組みを検討しなければならない。
67	「5. 行政の役割」	・地域の課題があるほど、行政との関係は必要であるが、それが十分に担保されるのか。
68	「5. 行政の役割」	・既存のコミュニティは、地域割りの問題や若い人が入りづらい雰囲気があるなどの様々な課題がある。それに対して行政は地域の多様性、積極性、自主性を重んじることが重要であり、市の職員は調整力、地域の人を発掘しつなげる力、提案力が必要である。
69	「5(1)地域フォーラムへの参加」	・9頁5(1)の2行目:「…福祉など地域で解決すべき公的な課題…」を「…福祉など行政が深く関わりをもつべき公的な課題(前述第2レベルの課題)…」とする。
70	「5(1)地域フォーラムへの参加」	・自主三原則はあるが、行政には相談すれば相談に乗ってもらえる関係を構築していただき、課題解決につながっていただけると良い。

番号	中間提言の該当場所	意見(要点)
71	「5(1)地域フォーラムへの参加」	・行政に対しては相談相手として重要であり、関与を期待している。
72	「5(1)地域フォーラムへの参加」	・行政が参加する場合には、行政が情報提供を行って関わっていくことが必要である。
73	「5(2)地域フォーラムでの基本的な立場」	・自主三原則を守る部分と行政が出て行く部分をどのようにバランスを取るのかが重要である。
74	「5(2)地域フォーラムでの基本的な立場」	・自主三原則が変わっていくのであれば、少なくともパートナーシップを維持するために最低限のラインを決定して行政の関わり方を明確化することが重要である。
75	「5(2)地域フォーラムでの基本的な立場」	・地域フォーラム(仮称)は地域の個々人も参加する組織であり、そこに市民活動推進課職員が参加するのであれば、対等ではなくサポートする立場なのではないか。
76	「5(2)地域フォーラムでの基本的な立場」	・行政との関わりについては、行政が市民に対して勉強の機会を提供することが必要で、コミセンの役員だけでは解決できない局面ではコミセンの会議に行政が積極的に参加して、横断的な視点から解決してほしい。
77	「5(2)地域フォーラムでの基本的な立場」	・行政が実施すべき地域課題まで地域に持ち込まれることがあってはならない。地域と行政の間では適切な役割分担が必要であり、地域側から行政に対して関わってほしい事を提言できるようなフォーラムにしていきたい。
78	「5(2)地域フォーラムでの基本的な立場」	・9頁5(2)の1行目:「…行政は、地域で解決すべき課題について…」を「…行政は、行政自身が深く関わりをもつべき地域課題(前述第2レベルの課題)については…」とする。
79	「5(2)地域フォーラムでの基本的な立場」	・9頁5(2)の最終行:「…保っていくことは、「自主三原則」を基本としつつ、さらに市民と行政との協働を充実させるという考え方に立つものです。」とする。==【自主三原則が生まれた時代には、行政が直接関わる地域課題の重要性や今日的な意味での協働という考え方が十分に浸透していなかったと思いますので、「本来」と言うよりは、時代の変化に伴って自主三原則の考え方を発展的に広げていくという意味の表現のほうが望ましい】

番号	中間提言の該当場所	意見(要点)
80	「5(3)地域コミュニティを中心に活動する意識の共有」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市職員がコミュニティ構想への自覚を高め、フォーラムを有効に機能させるためには、行政の政策課題への対応も、分野別の視点だけでなく、フォーラム単位で総合的、包括的に検討し、執行するという方向に見直す必要がある。</li> <li>・そのような行政運営を可能とする組織体制に改めることが最も重要な課題のため、そのことを、もう一步踏み込んで記述していただきたい。</li> </ul>
81	「5(3)地域コミュニティを中心に活動する意識の共有」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政に対しては、縦割りとならないように、行政内部で情報連絡を密にするようにしていただきたい。また、行政職員が地域に出て、地域と相互に学び合うようなことをより積極的に実施してほしい。</li> </ul>
82	「5(3)地域コミュニティを中心に活動する意識の共有」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティづくりなどの自主的な活動と、市からの委嘱された課題解決の活動とを切り分けて考えてこなかった。自主活動は市の下請け業務ではなく、そこには市民自治につながる自由な意思と判断がある。地域によって異なる決断を職員が尊重することも必要である。</li> </ul>
83	「5(3)地域コミュニティを中心に活動する意識の共有」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政は多くの課題があり、その対応として、多種の区割りが発生している。これは非効率なことなので、可能なところはとりまとめ、横断的な行政活動をしていくべき。</li> </ul>
84	「5(3)地域コミュニティを中心に活動する意識の共有」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“要援護者支援事業”等福祉関係の事業を協働して進めるためには、一般市民に対する理解しやすい説明方法等も考えるなども必要であり、現状を踏まえると中間提言(P10)にあるような対応では行政は対等な立場を維持し、連携することには課題が多すぎるように思う。</li> </ul>
85	「5(3)地域コミュニティを中心に活動する意識の共有」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9頁(3)1行目:「…本来の姿…」を「…基本的な姿…」とする。==【理由は上記と同じ】</li> </ul>
86	「5(3)地域コミュニティを中心に活動する意識の共有」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9～10頁(3)の最初の2文は、下記としてはどうか。</li> <li>・地域課題は地域コミュニティで解決することが基本的な姿ですが、行政が地域住民と共に解決すべき課題については、地域コミュニティが単独に活動を展開するのではなく、「地域コミュニティ」を中心に行政もこれとつながり、情報を共有し、活動していくという意識を共有することが必要です。それこそが40年来取り組んできた武蔵野市の「コミュニティ構想」をさらに発展的に実現させていくための道だと考えます。</li> <li>・【理由はもともと行政が深くかかわることを想定していたというような表現よりも、時代の流れとともに行政も責任をもってかかわっていくことの必要性が高まってきた点を出す】</li> </ul>

番号	中間提言の該当場所	意見(要点)
87	「5(3)地域コミュニティを中心に活動する意識の共有」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10頁5行目:「…地域コミュニティ全体をマネジメントすること…」を「…地域コミュニティ全体の向上を促すこと…」とする。==【原案のままだと、地域コミュニティを行政が監理するように印象づけられる】</li> </ul>
88	「6. 実現に向けての課題と対応」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミセンが万相談所の機能を持つためには、コミセンは活動の中で全行政部署と対応出来る知識を身に付けつつ、いち早く学習や訓練などの実践による地域力を付けなければならない。</li> </ul>
89	「6. 実現に向けての課題と対応」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営委員がまちづくりや地域に対する意識を持つことが重要で、その為の研修が必要である。</li> </ul>
90	「6. 実現に向けての課題と対応」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーション能力の向上や地域課題に対する体系的な学びなど、さまざまな学びが必要である。また、学びの提供は協議会内のみで完結するのではなく、地域を越えた学びのネットワークの構築が必要であると共に、仕組みづくりにあたっては市としてのサポートが必要である。</li> </ul>
91	「6. 実現に向けての課題と対応」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中で、ファシリテートできる人を育てていかなければ、地域の特徴を踏まえながら、進めて行くことは難しい。</li> <li>・地域はさまざまな人から成り立っているということを、コミセンの仕組みを活用しながら、あるいは他の団体とも連携しながら、皆が理解し合うことも重要であると思う。</li> </ul>
92	「6(1)多世代からの参加の促進」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域力を高め、住民が自治能力を持つことがコミュニティ活動を盛んにするため、行政は住民の自主的な学習について、年間計画を策定するなど、より一層の支援体制を整備すべき。</li> </ul>
93	「6. 実現に向けての課題と対応」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ協議会の運営委員はボランティアで参加しているためできることには限りがある。そのため、地域の媒介役になり得る人を集めたり、そうした人材を育成するための教育などが必要である。</li> </ul>
94	「6. 実現に向けての課題と対応」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域フォーラムという仕組みを作っていくのであれば、最終的には事務局機能をコミセンが受けざるを得ないだろうと思う。そうした中で、今後市民教育を進めていかないと、協議会を支える人材がよりいっそう減少していくのではないかと思う</li> </ul>

番号	中間提言の該当場所	意見(要点)
95	「6. 実現に向けての課題と対応」	・コミュニティセンターの役割や運営、自主三原則や指定管理者制度の正しい内容などについて、コミセン運営委員の意識改革が必要である。
96	「6. 実現に向けての課題と対応」	・現状は自主三原則の名の下に各コミュニティ協議会が独自の運営を行っているため、地域フォーラムを作り上げるためには、地域の団体の方も運営委員になっていただき課題の共有を図ることから始めたり、コミュニティ協議会自体がスキルアップを図っていくこと、事業や行事の中で行政や団体が関わる機会や範囲を広げていくことといった方法が考えられる。
97	「6. 実現に向けての課題と対応」	・課題解決が困難であるから地域フォーラムを立ち上げるというようにも見えるが、そうであるならば、むしろ行政の力を活用して突き進めた方が良いのではないか。
98	「6. 実現に向けての課題と対応」	・フォーラムを有効に機能させるために少なくとも地域の課題を解決しようと主体的な活動が新たに立ち上がった場合、それを市の担当部署が直接支援するのではなく、地域で支える仕組みが必要である。例えば、フォーラムの運営予算から、活動に必要な補助を出すことが考えられるため、地域の課題に応じた自主的な活動を地域で支える仕組みの必要性を記述してほしい。
99	「6(1)多世代からの参加の促進」	・地域が担ってほしいことをコミュニティ協議会をはじめとする同じ方々に要請してきた。どの委員会に出ても同じ方々になってしまったのは、職員が参加する市民を広げず、一部の市民の方にしか声をかけてこなかったことにも原因がある。
100	「6(1)多世代からの参加の促進」	・新しい人たちが参加しないのは、現在の運営委員が新しい人たちを入れる気がない、退く気がないような雰囲気があるからである。
101	「6(1)多世代からの参加の促進」	・「SNS」はこれから重要なツールになる。コミセンの利用者層を広げ、世代を超えたコミュニティに成長させるためにはこのツールを利用すべきである。
102	「6(1)多世代からの参加の促進」	・地域コミュニティにマンションの関わりが薄いことが問題点として指摘されている。市民の7割がマンション居住者である状態で、こうした人を取り込めるような地域フォーラムである必要がある。

番号	中間提言の該当場所	意見(要点)
103	「6(1)多世代からの参加の促進」	・多世代からの参加については望ましいことである。
104	「6(1)多世代からの参加の促進」	・コミセンで活動をしていく中で、会話を介していくと人付き合いが濃厚になっていくと経験している。それとおなじ事が協議の場として想定されているのであろうが、そういう場に参加する人が、減っていく人も多いと感じており、その理由はよく分からないでいる。こうした中、フォーラムにどのように参加者を増やしていくのかを考えるのは、地域の人だけでは難しいのではないかと思う。
105	「6(1)多世代からの参加の促進」	・マンション管理組合への参加要請やコミュニティづくりに関する研修を実施することは、コミュニティ構想の市民自身による自主的自発的なコミュニティづくりではないのではないか。
106	「6(1)多世代からの参加の促進」	・地域コミュニティは新たな人の発掘が大きな課題である。その解決策として小さい頃からコミュニティに巻き込んでいくことや、退職後の人の特技を生かした巻き込みなどが必要である。きっかけとしては祭りなどが想定され、さらには地域で参加を促すような「スカウトマン」のような仕組みや、行政による広報なども必要。
107	「6(1)多世代からの参加の促進」	・担い手の確保として、若い人に担っていただくためには、明るく楽しく情報を発信していくことが必要である。また、行政としては、これまで関わってこなかった人の実態を把握することも必要である。その際これまでのようなアンケートではなく、マーケティングの視点からこれまでとは異なるアプローチが必要であると思う。
108	「6(1)多世代からの参加の促進」	・地域コミュニティは担い手の発掘、人材育成が必要。災害時要援護者対策事業を地域コミュニティの起爆剤として有効活用して担い手の発掘を行うべき。また、若年層については、地域コミュニティが必要となる世代をターゲットとした事業を展開すべき。 ・担い手育成の観点では、PTAの段階から人をスカウトする仕組みも必要。
109	「6(1)多世代からの参加の促進」	・日頃利用率が低い属性の人たちをどう地域活動に参加してもらうかが課題である。
110	「6(1)多世代からの参加の促進」	・単身の市民をどう取り込むか、流入した若年単身者が家庭を持つきっかけとなる事業もよいのではないか。

番号	中間提言の該当場所	意見(要点)
111	「6(2)協議の場の実現」	・総会や運営委員会の活用ではなく、地域フォーラムについては、コミュニティ協議会をはじめ多様な活動組織に参加呼びかけを行う必要がある。広く開かれた協議の場を地域に作ることは賛成だが、もっと丁寧に考える必要がある。
112	「6(2)協議の場の実現」	・まちづくり活動事例については、けやきコミセンや吉祥寺南町コミセン等、すでに地域の中で実践されている例を取り上げ、その取組を検証してはどうか。
113	「6(2)協議の場の実現」	・11ページの「(2)協議の場の実現」の内容は、具体的に書き込みすぎているのではないか。
114	「6(2)協議の場の実現」	・実施するならば、最初からしっかりと固めた制度ではなく、取り組むのが良いように思う。
115	「6(2)協議の場の実現」	・地域フォーラムを全市で取り組むにあたっては、市として相当な覚悟を持って進めていかなければいけない。自主的な活動ができない地域に関しては、市の職員の相当な関与がなければ難しいと感じる。手厚い人員配置が可能であれば、検討してもいいのではないか。
116	「6(3)地域を中心に活動する意識の共有」	・中間提言で「地域の緩やかなつながり」を求める声が多数あったとあるが、今のコミセンだけでは守備範囲が広すぎる。例えば、大型マンションに対する要請のように、生活環境の激変等への対処対策が不可欠にもかかわらず、地域に対する協力を求めても、助力を受けられないことが発生している。 ・地域密着で活動している各団体やコミセンに対して、一般市民に対する意識及び接する態度等の調査を厳密に行い、評価すべきところは他の団体にも広め、是正すべきところは是正することで、地域フォーラムの真価が発揮できる。既存団体が市民に溶け込んで活動できればコミセンの認知度も高まり、地域で解決すべき課題も表面化しやすくなる。
117	「6(3)地域を中心に活動する意識の共有」	・吉祥寺西コミュニティ協議会では、先駆的に地域懇談会を年2回開催しており、この芽を育てるためにも、役員への問題意識の共有をお願いしたい。
118	感想	・成蹊大学地域交流部とのコラボを継続する中で、様々な取り組みが展開された。地域フォーラムにも発想を新たにさせてくれる新たな息吹として登場いただける事を期待している。

番号	中間提言の該当場所	意見(要点)
119	コミュニティエリア	・コミュニティエリアを小学校区にそろえる。
120	コミュニティ協議会	・コミュニティ協議会のレベルアップが必要である。
121	コミュニティ協議会の在り方	・今回の提言の内容は、コミュニティ協議会の本来の機能として、地域フォーラムの運営が位置づけられているように見える。そうであるとすると、コミュニティ協議会の機能を大幅に変更するものと受け取れ、地域フォーラムの運営によりコミュニティ協議会の従来の活動が阻害されてしまうことを危惧している。いずれにしても、コミュニティ協議会の本来の機能をどう位置づけるかを明示し、整理する必要がある。
122	コミュニティ協議会の運営	・現在のコミセン役員は福祉の会・防災会・老人会・PTAなどのあらゆる場面で役員となっており、その周りの人も固定化している。意見を述べても、市からの情報も、コミセン委員で止まってしまう。
123	コミュニティセンターの配置	・担い手育成におけるPTAとの連携の観点から、コミュニティセンターの建て替え時、あるいは小学校の建て替え時に学校内にコミュニティセンターの設置(複合化)を検討すべき。
124	コミュニティセンターの配置	・学校建替時に、コミセン機能を統合する。
125	コミュニティセンターの配置	・学校建替の際は、コミセン機能も含む、設計段階から地域住民の参加を積極的に促す。
126	コミュニティセンターの管理運営のありかた	・年配の方が多く、スピード感もなく時代にそぐわない。
127	コミュニティセンターの管理運営のありかた	・利用時に個人情報をお細かく聞いてくるコミセンがある。コミセンごとの差は何か。プライバシーの管理が心配。
128	コミュニティセンターの管理運営のありかた	・コミセンミシュランを実施してはどうか。
129	コミュニティセンターの管理運営のありかた	・コミュニティセンター受付担当者の対応についてそのサービスマナーがなっていないとの評判を多くの利用者から聞く。受付担当者のサービスマナー向上と「センターをご利用いただく」という気持ちで市民に接するための研修実施を求める。

番号	中間提言の該当場所	意見(要点)
130	コミュニティセンターの管理運営のありかた	・コミセンについて大震災に対応する為、早急にガラス飛散防止フィルム貼付け工事や天井の耐震見直し工事を完了すべきである。
131	コミュニティセンターの管理運営のありかた	・コミセンを借りるだけでも非常に大変であったという地域団体の意見もあり、コミュニティ協議会とコミセンの関係について、改善していく必要がある。
132	コミュニティセンターの管理運営のありかた	・指定管理者制度はこのままで良いのか。
133	コミュニティセンターの管理運営のありかた	・コミュニティ協議会がコミセンの指定管理者となったことによる効果検証を実施してほしい。 ・コミュニティ協議会の機能が変化する中で、指定管理者としてコミセンの管理運営を行うことが前提となっていることに疑問を感じる。本来的には市の直営でコミセンは運営されるべきではないか。
134	コミュニティセンターの管理運営のありかた	・コミセンが市民活動の拠点として居場所となっていないのは、ソフト面にもその理由がある。協議会の活動やコミセンの設置理念がなかなか浸透していないこと、他団体から協議会が閉鎖的で排他的と思われることなどである。若い人ができることは任せ、他の団体ができるイベント等は譲り、肩の荷を降ろして負担を減らすことで、協議会自身も楽しめる環境になり、利用者や参加の輪が広がることにつながる。
135	コミュニティセンターの管理運営のありかた	・コミセンの運営は以下のいずれかを選択する。コミ協をコミセン運営から解放し、コミセンを地域に開放する。 ①全コミュニティセンターの運営を一括して指定管理者公募する。 ②全コミュニティセンターの運営を市直営にする。
136	コミュニティセンターのサービス	・コミセンで住民票等の受け渡しや図書返却等ができるようにする。土日夜間も。行政サービス機能の追加。
137	コミュニティセンターの認知	・コミュニティセンターは、自分がその存在を知ったときにはじめて存在意義があるものである。様々な市民がいるなかで、知らない市民がいても仕方がなく、退職などを契機として地域を意識したときからコミセンを認知していくことで良いのではないか。

番号	中間提言の該当場所	意見(要点)
138	コミュニティのとらえ方	・武蔵野市のコミュニティは地域ごとにも大きな差がある。市全体のコミュニティをまとめて同じ物差しで測るのはいかがなものか。
139	コミュニティへの参加	・住民総会の参加率が低く関心を持っている市民が少ないのではないかとといった危機感や、アンケート結果からは「つながり」をもとめる意見がでていますが、実際にはそういう局面は多くないのではないかと指摘がなされた。
140	自主三原則	・「中間提言書」に盛り込まれた『中身・内容』が容認され、受け継がれ、実践実行にされるのか、甚だ心もとない。それへの対応として「地域フォーラム」の立ち上げが謳われているが、それよりは、「自主三原則」なるものの見直しを図ったほうが、より現実的ではないか。
141	自主三原則	・コミセンによって違いがあるが、長年非民主的な事例が多数発生しており、「自主三原則」の負の影響が出ているのが現状である。こうした負の遺産を引き継がないコミセンとしたい。
142	自主三原則	・一方で、自主三原則についてはその重みが強すぎ、また内容を曲解している人もいるように思うので、今後とも是非検討課題としていただきたい。
143	自主三原則	・コミュニティ協議会に関しては、過去も数多くの検討がなされてきたはずである。その内容を実現する際に、自主三原則の考え方のために、うまく実現できないこともあったのではないか。今回も同じようなことにならないよう、各団体の目標を明確にするなどが必要である。
144	自主三原則	・また、自主三原則のマイナスの側面にも注目する必要があるとの指摘もあった。
145	自主三原則	・自主三原則については、廃止せよとまでは思わないが、できてから40数年がたっている中でその負の部分が現れているように思う。その部分を見直していくことができるのかという点についての疑問がどうしても消すことができない。

番号	中間提言の該当場所	意見(要点)
146	自主三原則	・自主三原則については、特定の参加が多い、自主企画とはいいつつイベント企画のみになっている、自主運営でありながら行政に答えを求めすぎているなどの課題もあり、自主だけでは立ちゆかなくなっているのではないか。
147	自主三原則	・自主三原則や指定管理者制度は問題である。行政が及び腰になる制度はおかしく、抜本的な改革を期待する。
148	全般	・これまでコミセン・コミュニティ協議会が取り組んできた活動を踏まえ、答申を急がないでほしい。 ・コミセンで活動する市民が、改革に自身が参加したと思える提案をしてほしい。
149	全般	・中間提言の内容には基本的に賛成である。
150	全般	・「地域コミュニティ」に括弧をつける／つけないについて統一した方が良い。
151	その他	・吉西福祉の会は結果的に、今回の提言のような活動をしている。
152	その他	・提言にある「災害時支え合いステーション」構想は大変重要である。市が主導でコミセンを災害時支え合いステーションとして運営し、あらかじめ登録された高齢者や親子を優先的に保護することができれば、混乱も少なくて済む。そのためにも、日頃から要支援者がコミセンとつながりを持つことも必要である。
153	その他	・検討委員会の名称であるが、なぜ、第7期コミュニティ市民委員会にならなかったか。コミュニティ市民委員会とは別のコンセプトがあったのだと思うので、その点については提言書の中に整理しておいていただきたい。
154	その他	・コミュニティ協議会以外の各団体の見方についても知りたい。
155	その他	1 H24「これからの地域コミュニティと市民自治の検討のための基礎調査」について(略)